

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

FAX042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

市民活動支援基金による 助成団体が決まりました

■稲城ワイルダー（代表 岡本寛さん）

2007年6月発足

月に1回程度の頻度で、いなぎふれあいの森を利用し、広く稲城や多摩の自然・文化に親しむ市民交流活動を行っている団体で、基金からの助成は、ふれあいの森の畑を利用した農業体験を行うための材料代、道具代、資料代などに使われる予定です。

■こぐまねつと（代表 門脇るみさん）

2006年4月発足

市内の子育てグループどうしの交流や情報交換、子育て中のパパ・ママへの情報提供など、子育てのネットワークづくりを目指している団体で、そのために「こぐまねつと通信」を月1回発行しています。基金からの助成は、「こぐまねつと通信」の発行部数を増やすための費用や、活動中に公民館保育室で保育を行うときの保育士派遣費用などに使われる予定です。

■いなぎFFネットワーク（代表 廣田雅恵さん）

2001年7月発足

中高生の子どもたちが、ホッとくつろげるような居場所づくりを行っている団体で、毎週水曜日に城山文化センターで活動しています。基金からの助成は、新たに総合体育館を利用した活動を行うため、バドミントンラケットなどの消耗品費や施設利用料などに使われる予定です。

■NPO法人ひさし総合教育研究所（代表 渡部陽子さん）

1998年9月発足

子どもが思春期になっても、その発達課題を達成できるよう、自己実現支援のできる家族関係・友人関係を確立するために家庭支援講座などを行っており、基金からの助成は、専門家を招いて行う講座の講師料の一部として使われる予定です。

11月15日に審査会が開かれ、申請した右の4団体すべてに対し助成することが決まりました。

このうち、上3団体は「スタート助成」に該当し、いずれもNPO《子どもの森》芸術文化振興基金から助成されます。最後の「ひさし総合教育研究所」のみが「ステップアップ助成」で、サポートセンター独自の基金から助成されます。

助成金額はいずれも5万円で、助成期間は本年12月から来年11月までの1年間です。

NPO《子どもの森》芸術文化振興基金（代表理事／荒木重雄さん、専務理事／角田亨さん）は、地域の活性化と地域の教育力の充実をめざし、子どもの芸術文化活動および子どもたちの健やかな育ちの環境づくりに寄与する芸術文化の振興を目的に設立された団体です。

その目的を実現するため、様々な主催事業を実施しているほか、支援事業や受託事業を行っています。

楽しい水辺の景観づくり ～グラウンドワーク（GW）三島の実践に学ぶ～

12月1日に、上記テーマのNPO講座を大丸地区会館で実施しましたので、その実施状況を報告します。



当日は講座に先立ち、午前中に、いなぎエコ・ミュージアの案内で大丸用水のウォッチングを行いました。



▲用水の立体交差の仕組みを視察

午後からは、GW三島から事務局長の渡辺豊博さんをお招きし、「水の都の再生と保全の取り組み」というテーマで、話をさせていただき、その後、講師や大丸用水をテーマに活動している団体の方々などを交えて意見交換を行いました。



渡辺講師の話はユーモアがあり、笑いが絶えませんでした。その中にドキッとするような大事な話が随所に含まれていて、まちづくりの活動を進める上でとても参考になりました。

以下、そのほんの一部ですが

紹介してみます。

●大事なのは環境 教育の視点

いま三島では40のプログラムをやっていますが、今でも少しずつ成果を残しています。そのことで人の心を変えており、それが成果なのです。その意味でこの運動は、「社会変革運動」であると言えます。

三島には21の小中学校があり、そのうち10校でビオトープのプロジェクトを行っており、2400人～3000人の子どもたちが関わっています。私たち大人が川のことをやるのはいいことですが、それを誰に伝えるのが大事です。

つまり、環境教育の視点がないと大人だけの自己満足で終わってしまいます。

●目標の共有化を徹底的に

先ほど40のプログラムを進めていると言いましたが、その活動は中心部から周辺部に確実に広がっています。そのとき、私たちGW三島はできるだけ黒子に徹し、町内会長と役員に合意をとって地域に入っていくようにしています。すなわちNPO+地域（町内会）+行政+企業という図式が大事なのです。

企業からは重機や水中ポンプ、それを動かす人材を提供し

▼2階の和室で車座になって・・・



てもらっています。

GWの運動は源兵衛川の再生がきっかけでした。昭和58年頃から活動を始めましたが、始めるに当たっては、参加者が75点～80点ぐらいの共有意識をもつようにしました。子ども頃によく遊んだ、きれいだった昔の源兵衛川、それが私たちにとっての原風景、原体験なのです。

そのことについてとことん話し合い、それをコンセプトにして目標を共有化したのです。3年間で180回も話し合いました。

●深化は進化を生む

GW三島の活動は16年目に入りました。その間<モチベーション><緊張感><やりがい>はずっと持続させてきています。たぶん絶えず新しい活動を仕掛け、取り組んでいるからだと思います。ですから、我々の活動は「重層的市民運動」であると考えています。それは「深化は進化を生む」ということでもあります。すなわち、深く根を張ることで、活動は横に広がっていくということです。



他にも示唆に富む話がたくさんあって、とても有意義な講座でした。（文責：小林）

十月

「私と和太鼓」

話し手：木崎 充教さん

木崎さんは和太鼓の会「鼓遊^{から}」の頭を務めています。地域の文化芸術発展と次世代を担う子ども達の健全育成を目的に、平成10年に結成されました。

太鼓を始めたきっかけは28歳の時、素晴らしい演奏を聴いて「女性にもてるかな」と思い、翌朝入会を申し込んだとのこと。それから6年後に佐渡の「鼓童」に出会い、全身がしびれるような感動を受け、それ以来「鼓童」に追いつき、肩を並べられるようになりたいと、がんばってきたそうです。

現在は坂浜の「鼓遊の郷」が練習や活動の拠点、「鼓遊」を卒業し演奏活動をしているメンバーもいますが「有名になっても、いつでも帰って来い！」という思いがあるとのこと。

ドンドン・・・・。太鼓は母親の胎内に宿しているときの心音と鼓動が同じなので、赤ちゃんは太鼓を聴きながら眠ってしまうことがあるとも・・・・。(体内回帰の音色である)

「ひとりでは何も出来ない。多くの人に支えられていると気がついた。任せることは任せる。頭として本来の姿を見せて、大きな気持ちで指導してきた。兎と亀ではないが、10年コツコツやってきたことが着実に実を結んできたのだと思う」と話されました。(稲垣)

十一月

「そばに懸ける半生」

話し手：藤田 敏夫さん

話し手の藤田さんは、日蓮連の理事や、NHKのそば打ちの講師などを務めておられます。今は東京の7会場の講座を担当しているそうですが、指導するには自分が絶えず勉強しなければならないとのことでした。また、フジテレビで放映された「鬼平犯科帳」に金太郎そば屋役で出演したこともあるそうです。

日本そば屋の現状ですが、以前は約6000軒あったのに、今は約2800軒に減少してしまったそうです。しかしテレビの影響もあって、そば好きは増えているとのことでした。

蕎麦と更科そばの違いは・・・・

★蕎麦・・・栄養価が高く香が優れている。たんぱく質が多いが黒っぽい

★更科そば・・・でんぷん質が多く白っぽい。麺質が堅く歯ごたえがある

次にそばの親父の国際貢献(ミャンマーでのそば栽培方法の指導)について話されました。

数年前に信州大学の教授を団長としたメンバーに入り、ミャンマーのコーカン地区(すり鉢状の傾斜地)でそばの栽培方法を指導。現在は山梨県《大月エコの里》でNPOを立ち上げ、そばを栽培し、十割そば打ちの指導やそば打ち大会を行っているそうです。(稲垣)

ガンバってます 14



▲熱心に打ち合わせ・・・

民間のメンタルケア協会で勉強して、メンタルケア・スペシャリストの資格を取得した仲間同士が、1年間の自主勉強会を続けた後、1997年3月に会を立ち上げました。代表の中村さんは、「学んだことを生かして、悩みを抱えている人たちの役に立ちたい。また、身近に相談できる人がいなくて困っている人たちに元氣になつてもらいたいとの思いから活動を始めた。あつ

悩みを抱えている人の役に立ちたい

メンタルケアサービスセンター「暖」

代表：中村久美子さん

という間に10年が経ちました」と話してくれました。主存活動としては、①月1回のグループカウンセリングの開催 ②月1回の高齢者を対象とした相談です。特に、グループカウンセリング(毎月第3水曜日)では、参加者が悩みを話すことで自分自身を振り返り、問題解決の糸口を自分自身でみつけていけるようにサポートしてまいります。

「メンバーの皆さんは、つらい気持ちを抱えている人たちと真剣に向かい合い、共感を持って話を聴くという姿勢を何よりも大事にしている」と取材を通して強く感じました。

最近、日常的にストレスを強く感じる人が多くなってきていませんか？
安心して話せる、心から聴いてもらえる、不安な気持ちを安定させる・・・そして、元氣に・・・まずは、気軽に電話してみたいかがしでしょうか。

※要予約/080・1069・5410(北村まで)
※参加費/1000円(お茶代を含む)
(廣田)

ハッピーリタイアメント講座

～地元で活動されている方の
体験談を聞いてみませんか～

地元でいきいきと人生
を歩まれている方のお話
を聞き、交流します。

- ◆日時／1月26日(土)
午後1時半～3時半
- ◆会場／地域振興プラザ
4階会議室
- ◆会費 無料

【プログラム】

◆第一部

- ①お話「趣味と人生」
高橋忠利
- ②「輝いている人
みつけた！」

◆第二部「交流会」

※しごと情報・福祉ボラン
ティア・公民館活動・生
涯学習・まちづくり・市
民活動団体の紹介ブース
があります。

※終了後懇親会を予定
(参加費300円)

●問合せ 378-2112

【市民フォーラム】

稲城で安心して老いるために

～介護保険の理解と
地域福祉について～

- 日時／1月12日(土)
午後1時半～3時半
- 会場／中央文化センター
ホール

【プログラム】

- 第一部 介護保険の実際と
問題点
- 第二部 地域の福祉サービ
スについて

11月11日に、日野・
多摩・稲城市内における3
市「中間支援組織」の交流
会が、稲城市地域振興プラ
ザで行われました。
話合いのテーマは「PAS
MOを利用した沿線の市民
協働空間を創出する」でし
た。

11月19日に、埼玉県
吉川市のコミュニティ協議
会及びNPO連絡会のみな
さんが、当市の市民活動サ
ポートセンターの視察に見
えました。

午後7時～9時

金曜サロンスペシャル

■1月11日(金)

- ・話し手：森山祥子さん
(東京都消費生活アドバイザー・
向陽台在住)
- ・テーマ：「老後のお金を
とられるな」

契約関係の実例と防止策&
金融商品との上手な付き合い
方についての話です。消費者
トラブルが増加していますが、
被害にあわないためにど
うすればいいのでしょうか。

■2月1日(金)

- ・話し手：音川敏枝さん
(ファイナンシャルプランナー・)
- ・テーマ：「意外と知らない
年金分割」

年金分割と遺族年金は表裏
の関係にあるといいますが、
さて・・・スペシャリストの
話を聞きながら、生活してい
く上でだれもが抱えているリ
スクについて、一緒に考えて
みませんか。

理事会

ほうこく

11月12日……定例理事会

- ・ 利用登録団体の承認
- ・ 指定管理者制度に関する勉
強会について
- ・ 各プロジェクトの報告
- ・ 議事
下半期の事業についてほか

編集後記

ブランドワーク三島のキャ
ッチフレーズは“右手にスコ
ップ、左手に缶ビール”。その
ことについて尋ねると、「大事
なことは、参加者にどう思っ
て帰ってもらうかです。参加
してくれるのはいいですが、
みんな黙々と働いていて会話
がない。それでは次につなが
りません。次回に結びつける
ためにも終わったあとの缶ビ
ールは大事」とのこと。
事業を消化することに及々
としている私たちには、ちょ
っと耳の痛いコトバでした。
来年こそは、次に結び付け
るための配慮を心掛けたいも
のです。
(小林)

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています・・・年会費3,000円